

2022年度 卒業生アンケート調査結果概要

(調査対象：就職後2年目を迎えた1期生)

実施期間：2022年7-8月

実施責任	教育支援・教学IR室
データ分析	教育支援・教学IR室長 大久保つや子

1. 回答者概要

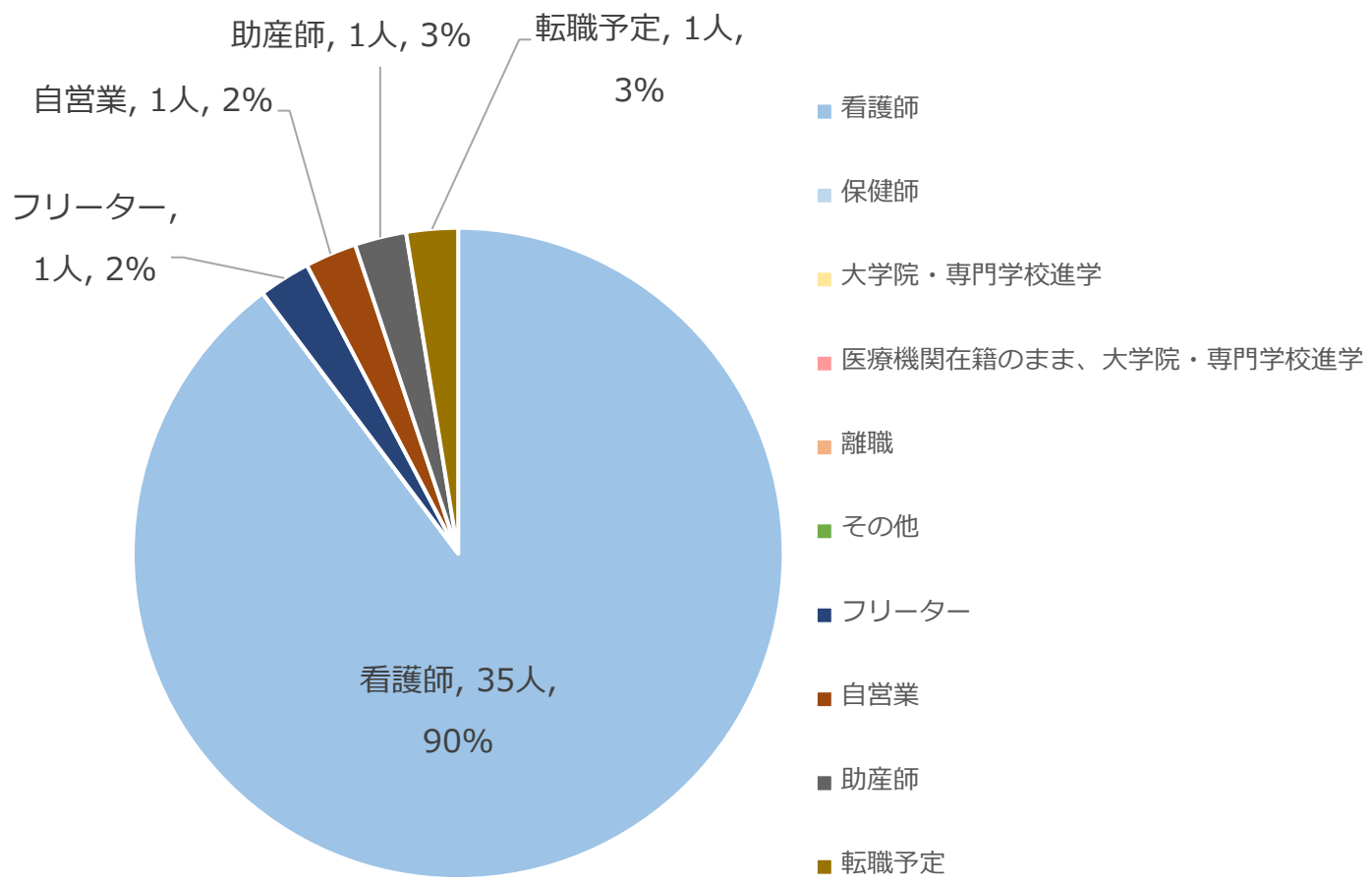
調査対象 : R2年度卒業の1期生 107名

回答数 : 39名 / 107名 (回答率 : 36%)

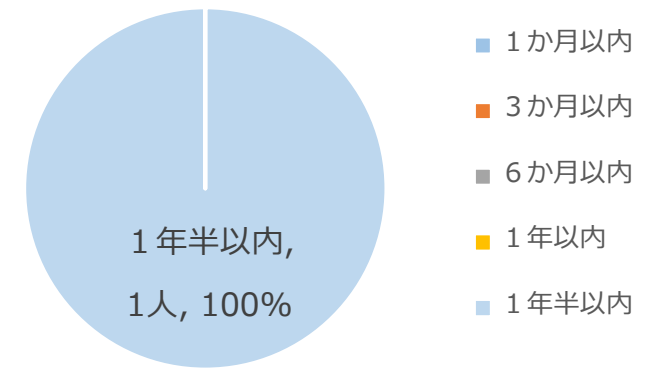
調査方法 : Web調査 (GoogleForm)

2. アンケート回答内容

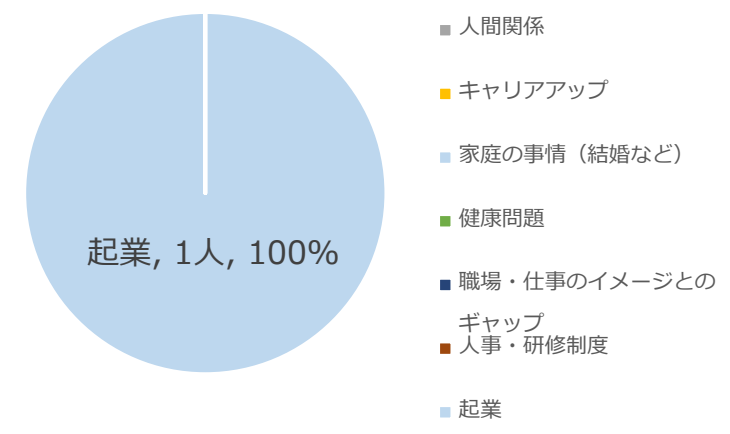
Q1. 現在の就業状況を教えてください。



Q2-1. 転職・離職の時期はいつですか。卒業後からの期間でお答えください。

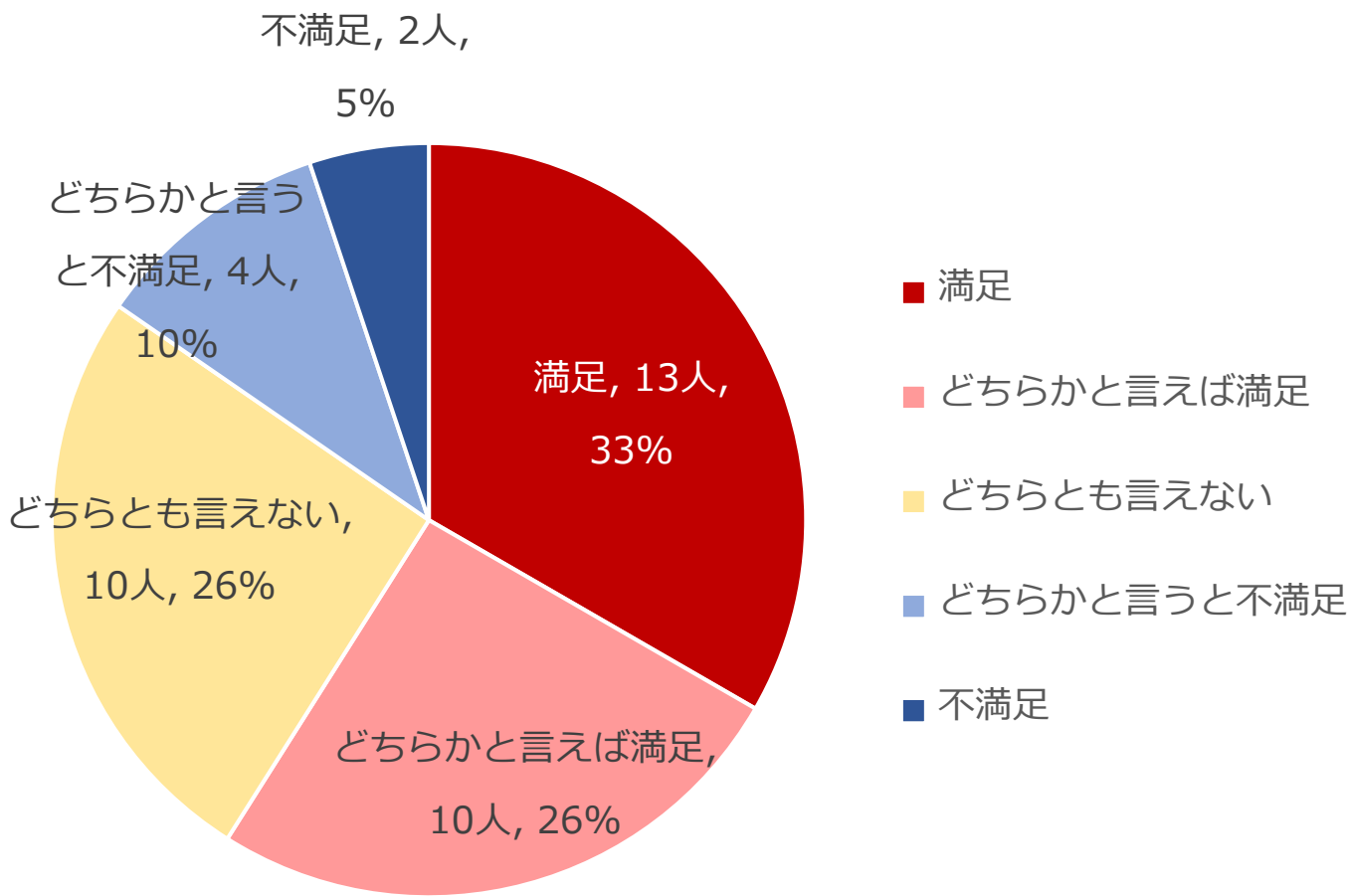


Q2-2. 転職・離職した理由をお答えください。(複数選択可)



2.アンケート回答内容

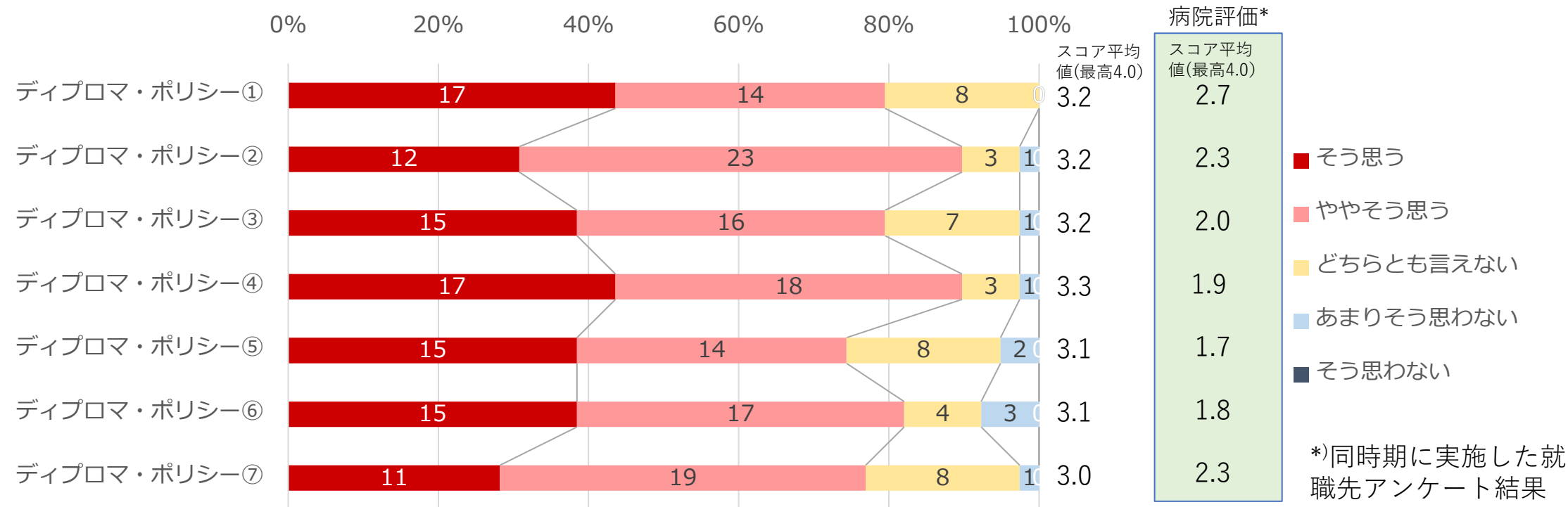
Q3. 現在の就職先への満足度について回答ください。



2.アンケート回答内容

Q4.福岡看護大学のディプロマ・ポリシー達成に向けた学習は、身につけていたと思いますか。

DP別の習得度



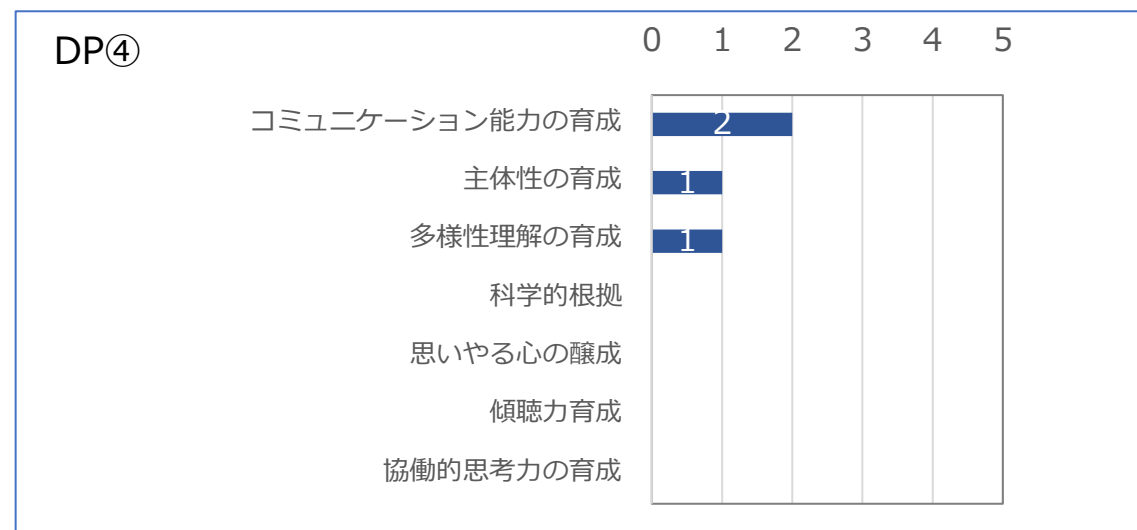
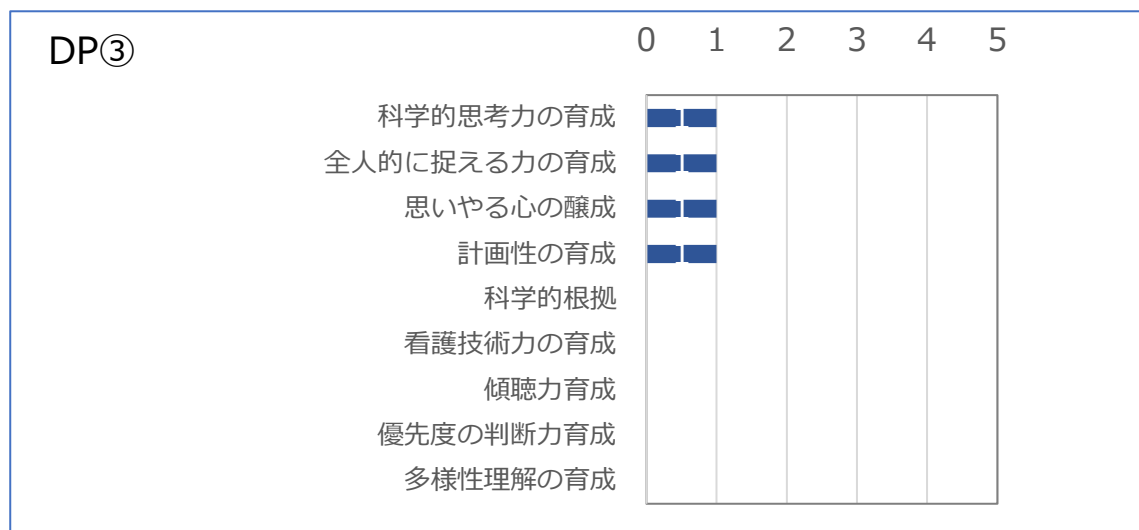
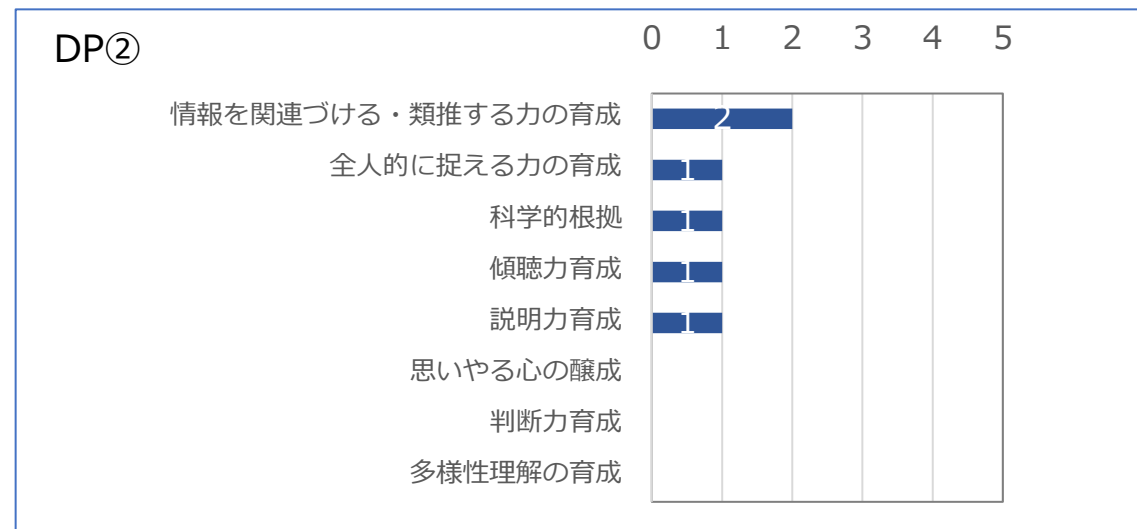
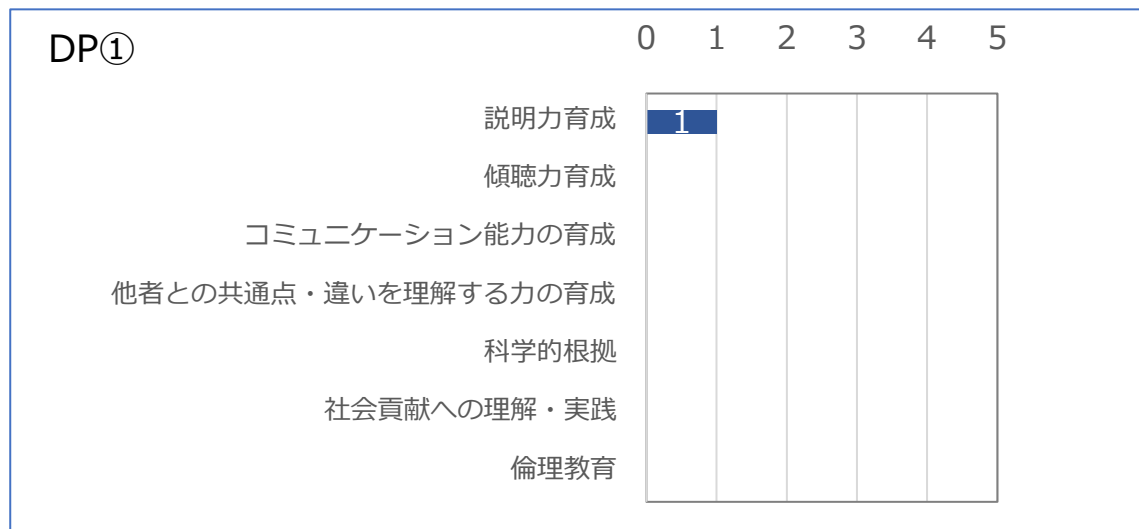
ディプロマ・ポリシー①生命の尊厳を重んじる高い倫理観を基盤に対象者を理解し、援助的人間関係を構築できる
 ディプロマ・ポリシー②多様な価値観を持つ対象者の健康問題に、創造的思考力を活用して柔軟な対応ができる
 ディプロマ・ポリシー③科学的根拠に基づく対象者の個性に応じた最適な生活（well-being）に向けた看護を計画的に実践できる
 ディプロマ・ポリシー④保健・医療・福祉チームの様々な職種が果たす役割を理解し、協調・協働方法の実際について説明できる
 ディプロマ・ポリシー⑤在宅高齢者の健康支援ニーズに対応するために必要な包括的な支援活動を理解し、看護実践への探究心を示すことができる
 ディプロマ・ポリシー⑥対象者に応じた口腔の援助技術を修得し、QOL向上に向けた口腔を起点とした全身の健康支援のあり方を探求できる
 ディプロマ・ポリシー⑦看護専門職として研鑽し続けるために必要な課題探究能力を有し、自己の課題を明確にできる

スコア化：そう思う4点、ややそう思う3点、どちらとも言えない2点、あまりそう思わない1点

2.アンケート回答内容

Q4. 「あまりそう思わない、そう思わない」と答えた方にお聞きします。

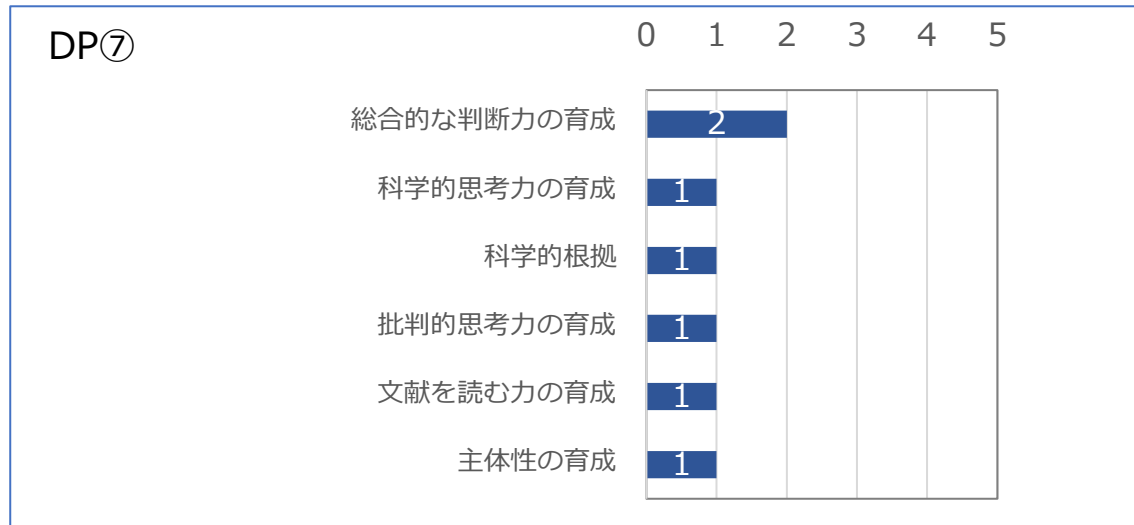
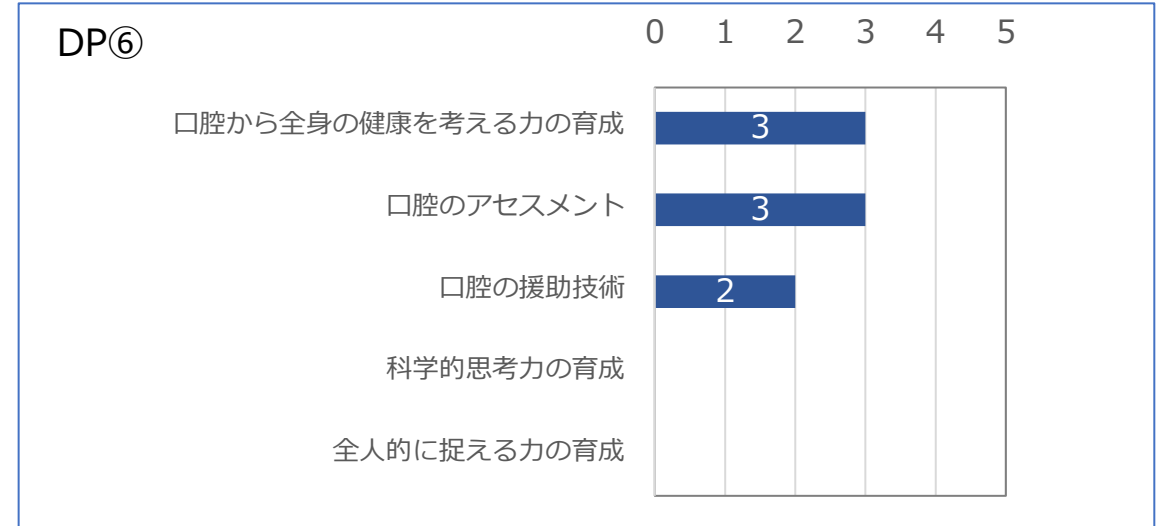
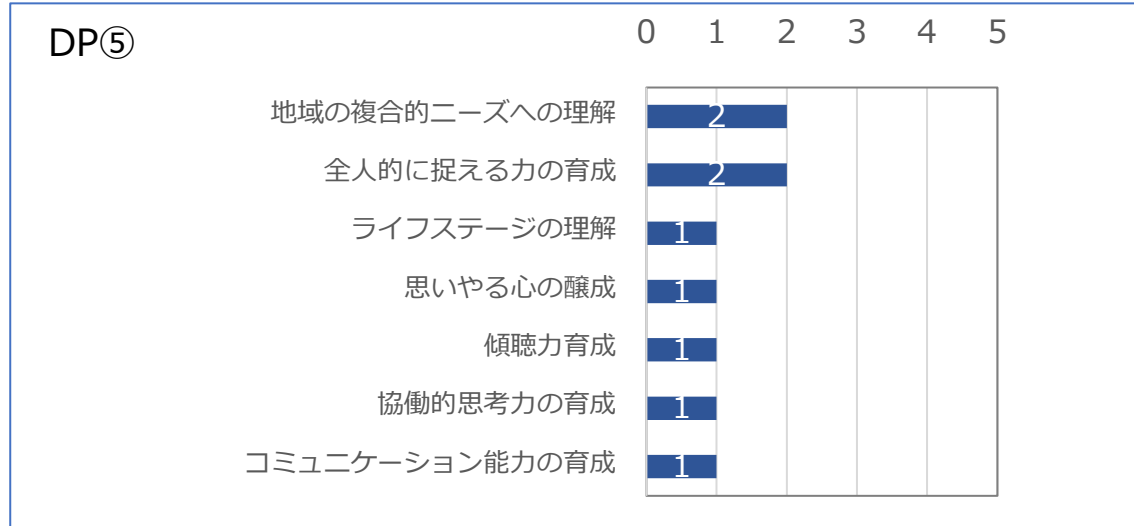
本学の教育で足りなかったと思われるものをご回答ください（複数回答可）。



2.アンケート回答内容

Q4. 「あまりそう思わない、そう思わない」と答えた方にお聞きします。

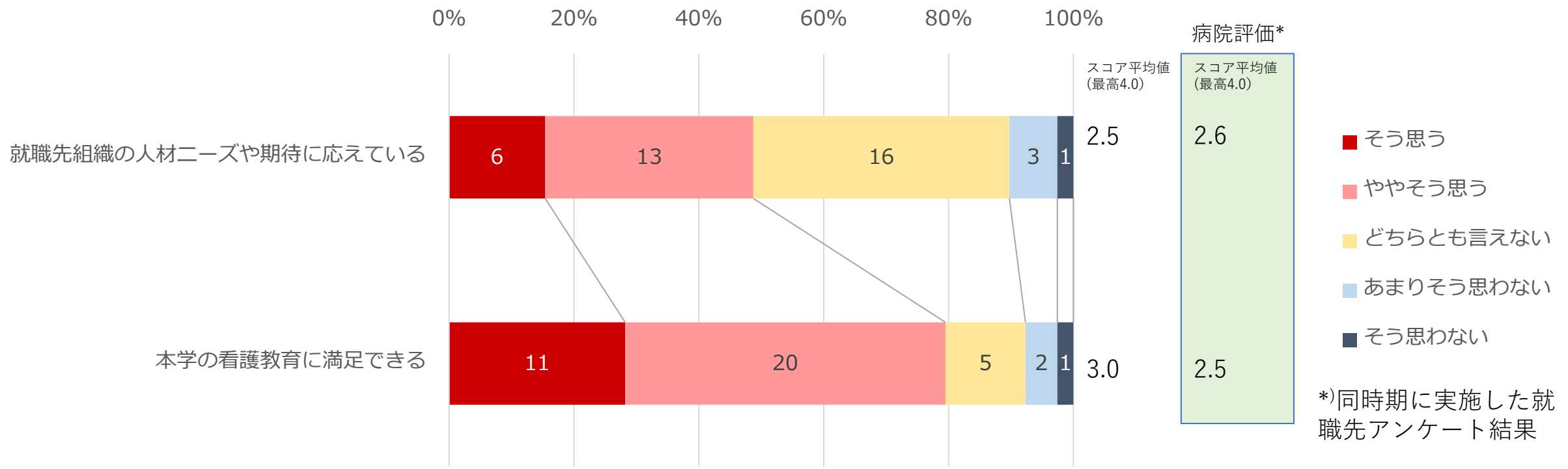
本学の教育で足りなかったと思われるものをご回答ください（複数回答可）。



2.アンケート回答内容

Q5. 自分の能力や意識についてお聞きします。

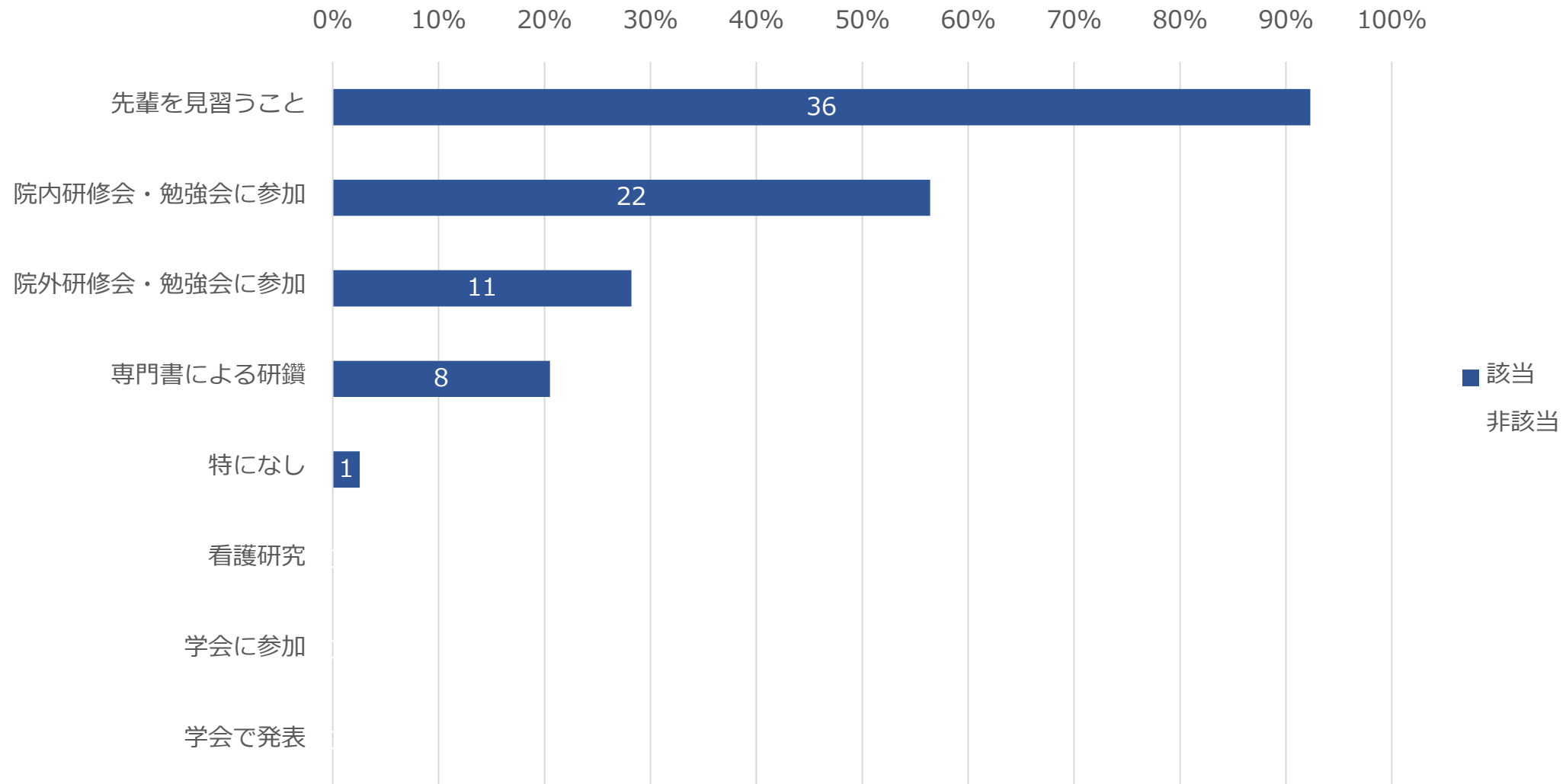
自分の能力や意識評価



2.アンケート回答内容

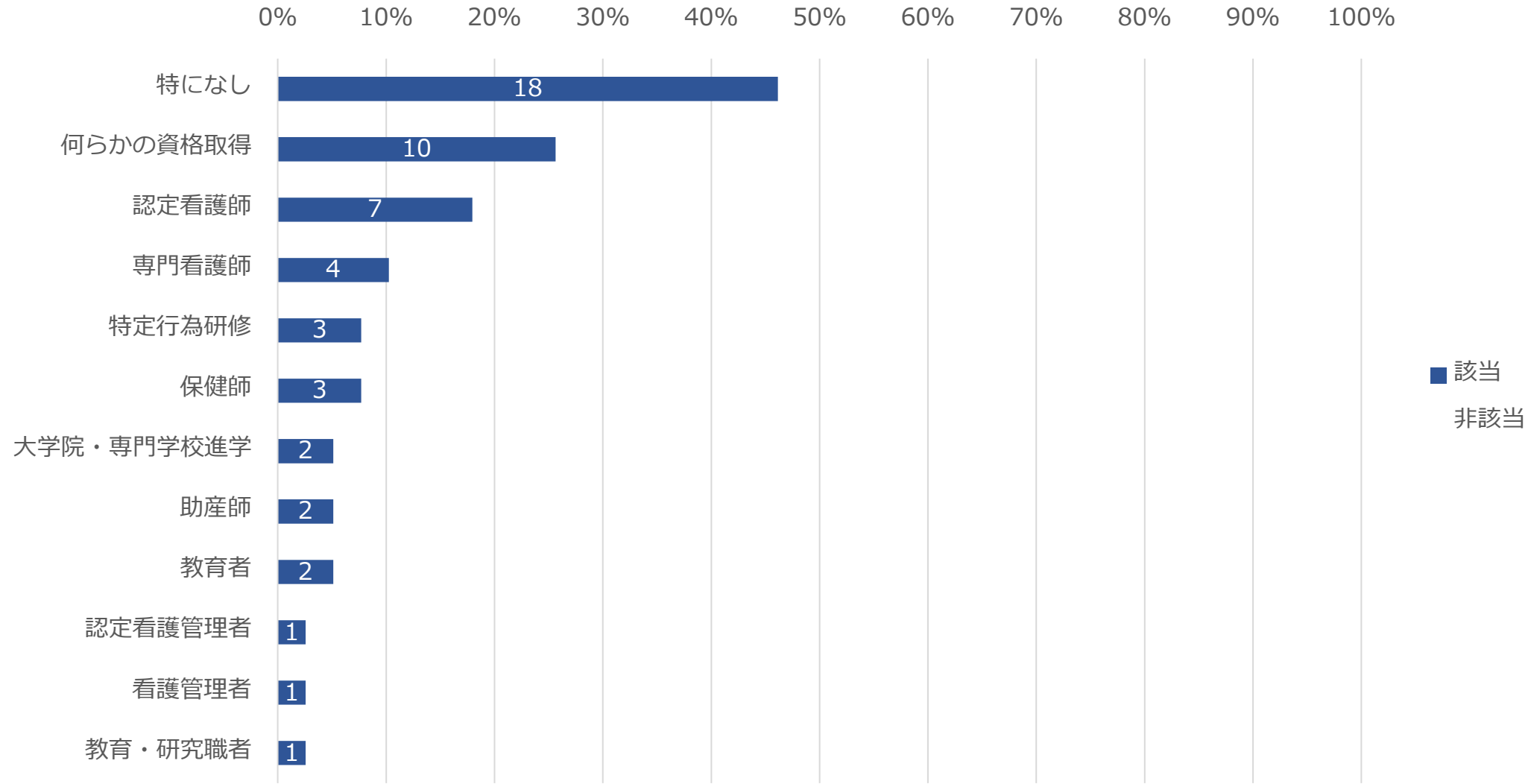
Q6.自己の成長のために実践していることについて回答ください。（複数回答可）

自己の成長のために実践していること



2.アンケート回答内容

Q7.今後（5-10年後）のキャリアアップに向けて、現時点で考えているものや予定しているものがあれば、該当するものを回答ください。（複数回答可）



2022年度卒業生アンケート調査結果分析

教育支援・教学IR室 室長 大久保つや子

実施期間：2022年7－8月

調査対象：就職後2年目を迎えた1期生 107名

回答数：39名 / 107名（回答率：36%）

調査方法：Web調査（GoogleForm）

Q1. 現在の就業状況を教えてください。Q2-1. 転職・離職の時期はいつですか。

90%（35名）が看護師として就業中であった。自営/フリーターは5.1%（それぞれ1名）であった。

うち1名は1年半以内に離職した卒業生と考えられる。すでに、先日の就職先アンケート結果からは他にも退職した卒業生が少なくとも3名はいることがわかっているが、この離職者とは一致していない。

Q3. 現在の就職先への満足度について回答ください。

15%の卒業生が「不満足・どちらかと言えば不満足」と回答していたが、59%の卒業生が「満足・どちらかと言えば満足」と回答しており、どちらとも言えないと合わせると85%がほぼ特段の問題なく就業していることがうかがえる。

Q4.-1 福岡看護大学のディプロマ・ポリシー達成に向けた学習は、身についていたと思いますか。

7つのディプロマ・ポリシーへの達成度の自己評価は4スコア中平均3.0～3.3（8割前後）と高かった。

一方、就職先アンケートによる他者評価では、1.7～2.7といずれのディプロマ・ポリシーへの達成度評価は低かった。その差は、特にDP4（保健・医療・福祉チームの様々な職種が果たす役割を理解し、協調・協働方法の実際について説明できる）とDP5（在宅高齢者の健康支援ニーズに対応するために必要な包括的な支援活動を理解し、看護実践への探究心を示すことができる）で最も大きかった（-1.4スコア）。これら2つのDPは、取り組むべき本学における教育の改善点として、就職先アンケートにおいても挙げたポイントでもあった。

自己評価と他者評価とのギャップについてはよくあることではあるが、本学が到達させたとする学位認定基準が問われている、また、病院側のニーズとのずれがあると考えることで、本学の教育の見直しにつなげることが重要であろう。

Q4.-2 「あまりそう思わない、そう思わない」と答えた方にお聞きします。

本学の教育で足りなかったと思われるものをご回答ください（複数回答可）。

回答数が非常に少ないため、本学の教育で足りなかったと思われるものについては信頼性があるものとして挙げることはできないが、2名以上が挙げた項目としては、以下がある。

DP2（多様な価値観を持つ対象者の健康問題）：情報を関連づける・類推する力

DP4（協調・協働方法の実際について説明）：コミュニケーション能力

DP5（包括的な支援活動を理解）：地域の複合的ニーズへの理解、全人的に捉える力

DP6（口腔の援助技術を修得）：口腔から全身の健康を考える力(3名)、口腔のアセスメント(3名)、口腔の援助技術

DP7（課題探究能力）：総合的な判断力

Q5. 自分の能力や意識についてお聞きします。

「就職先組織の人材ニーズや所属部署での期待に込えていると思いますか。」についてのスコアは、2.5/4.0で、病院による他者評価（就職先アンケート）とほぼ一致していた。「どちらとも言えない」とする回答が多く、まだ就職後2年目で自分の働き方や立ち位置を量りかねている様子がうかがえる。

「本学の看護職育成教育に満足できたと思いますか。」に対しては、「そう思う・ややそう思う」が79.5%、スコア3.0/4.0と高い評価が得られた。

Q6. 自己の成長のために実践していることについて回答ください。（複数回答可）

「先輩を見習うこと」、「院内研修会・勉強会に参加」においてそれぞれ92.3%、56.4%と高かった。

Q7. 今後（5-10年後）のキャリアアップに向けて、現時点で考えているものや予定しているものがあれば、該当するものを回答ください。（複数回答可）

「特になし」の回答が最も多く（46.2%）、次いで「何らかの資格取得」25.6%となっており、やはりまだ就職後2年目では余裕がなく、将来を考える状況にないのかもしれないが、在学中にもう少し将来のキャリアプランや選択肢を大学側が示しておくことも必要ではないかと思われる。